

平成26年（2014）栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果概要

平成27年 5月26日
観 光 交 流 課

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 県内の観光客入込数・宿泊数を推計し、観光客の動向を把握するとともに、本県観光施策の基礎資料とする。
- (2) 調査対象期間 平成26年(2014)1月1日から12月31日までの1年間（暦年）
- (3) 調査の方法 市町村からの報告に基づき、県が分類集計した。

2 調査結果の概要

観光客入込数・宿泊数、外国人宿泊数の推移〔単位：千人、％〕

※参考

区 分	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H26-25 増減	H26/25 比 (前年比)	H26-22 増減	H26/22 比
入込数	85,222	74,301	82,343	85,425	87,115	1,690	102.0	1,893	102.2
宿泊数	7,990	6,468	7,600	7,807	7,875	68	100.9	▲ 115	98.6
外国人 宿泊数	119	55	118	126	146	20	115.6	—	—

※外国人宿泊数の調査対象はH22までは8市町、H23からは全市町。

◆ 観光客入込数

平成26年（2014）の観光客入込数は、8,711.5万人で、前年と比較して、169.0万人の増（対前年比102.0%）となり、過去最高となった。

市町別にみると、宇都宮市の1,417.0万人（県全体に占める構成比16.3%）が最も多く、次いで日光市の1,074.5万人、那須塩原市の986.5万人、佐野市の862.3万人、栃木市の563.2万人、那須町の470.7万人の順となった。

前年と比較すると、日光市で68.9万人の増、栃木市で52.2万人の増、宇都宮市で41.9万人の増など、14市町で増加したが、12市町においては、未だ震災前の水準まで回復するには至っていない。

◆ 観光客宿泊数

平成26年の観光客宿泊数は、787.5万人で、前年と比較して、6.8万人の増（対前年比100.9%）と3年連続で増加したが、震災前の水準に回復するには至っていない。特に、主要観光地である日光市や那須エリアでは未だに震災前の8割台にとどまっているなど、回復状況に地域差がある。

市町別にみると、日光市の324.3万人（県全体に占める構成比41.2%）が最も多く、次いで那須町の166.0万人、宇都宮市の152.1万人、那須塩原市の94.2万人の順となった。

前年と比較すると、宇都宮市で6.6万人の増など14市町で増加した。一方、日光市で2.1万人の減など、8市町で減少した。

◆ 外国人宿泊数

平成26年の外国人宿泊数は、14.6万人で、前年と比較して、2.0万人増加（対前年比115.6%）し、過去最高となった。

市町別にみると、宇都宮市の6.2万人が最も多く、次いで日光市の6.0万人となっており、両市で県全体の83.6%を占めている。

前年と比較すると、日光市で1.9万人の増となるなど、11市町で前年を上回った。

なお、国・地域別内訳については、台湾、米国、中国（大陸）、タイ、韓国の順に多く、また、前年と比較すると、台湾で0.7万人の増、米国で0.5万人の増、タイで0.4万人の増など、韓国や中国（大陸）などを除くほとんどの国・地域で前年を上回った。